

「28年度評価結果シート（新潟市急患診療センター）」

1. 施設サービス提供

評価項目		評価	コメント
1 利用時間等	◎	A	<p>急患診療センターは、市民が安心して生活していくことが出来るよう、休日夜間の外来診療を担う施設であるが、医師不足や高齢化等の深刻な問題もあり、医療職確保が困難であるなか、医師や看護師等の医療スタッフを適切に配置するなど、年間を通じて初期救急医療サービス体制を確保し、本市の初期救急医療の拠点施設として、その役割を果たしていた。また、お盆は8月13日から15日の期間を休日診療体制を確保した。</p> <p>救急患者の外来診療を行うという、他とは異なる特殊な施設であるため、患者より様々な意見があるなかで、市との連携や速やかな医師・コメディカルへの聴取、指導を迅速に行ったほか、28年度より看護部長を配置し、看護師のみならず他職種職員も含めた管理、指導が行われた。</p> <p>平成28年度の患者数は、昨年度より減少した。インフルエンザ等感染症の流行期や患者数の増加が見込まれる長期連休期間等には、医師を増やすなど適正な人員配置ができた。また混雑時は、受付・会計を分離し、総合案内を設けるなど患者の待ち時間短縮のほか感染予防等が図られ、概ね良好な救急医療サービスを提供した。</p>
2 適正な人員配置	◎		
3 利用者の安全確保	◎		
4 案内等の対応と接遇	○		
5 苦情への対応等	◎		
6 緊急体制	○		
7 利用実績	◎		

2. 事業（市の事業）

評価項目		評価	コメント
1 目的にあったサービス提供	◎	A	<p>急患診療センターは、利用料金制であり、診療報酬は管理運営費に充当し、管理運営費の不足分を市からの委託料でまかなっている。よって、指定管理者として新潟市医師会の自主事業には、市は特に関係していないが、医療機関の不要不急の受診を避けるため、救急疾患サイト等のホームページに加え、平成28年より広報誌「急患診療センターだより」を活用し、センターに関する情報提供、病気の予防法又は対処法などについて広く市民に周知することで、市の救急医療体制に大きく貢献している。</p> <p>診療時間、医師やコメディカルの確保及び受診者数は他の同様な施設と比較しても優良と評価できる。また、お盆期間や年末年始前後の市内の診療を行っている医療機関を調査・把握し、市民からの問い合わせに対応しているほか、利用者の待ち時間にアンケートの実施や意見箱の設置を行い、改善すべき点や要望を把握するなど、より良い運営に努めている。</p>
2 適正な人員配置	◎		
3 情報提供・接遇	○		
4 再委託	◎		
5 利用者数等	◎		
6 苦情への対応等	◎		
7 緊急体制・対応	○		

3. 施設の管理

評価項目		評価	コメント
1 個人情報保護	◎	A	<p>急患診療センターは、平成21年4月1日に新潟市総合保健医療センター内に移転した。そのため建物保守管理、清掃・警備及び管理記録などについては、新潟市総合保健医療センターにおいて一括管理がされており、新潟市医師会は関係していない。</p> <p>修繕については、新潟市医師会が必ず新潟市に報告し、協議を行ったうえで、状況に応じて最善の策をとるようにしている。</p> <p>医療機器の保守業務は、専門業者へ再委託し適切な管理を行っている。</p>
2 備品等の管理	◎		
3 修繕	◎		
4 環境配慮	○		
5 再委託	◎		
6 災害等への対応	○		
7 関係団体、地域との連絡調整	◎		

4. 歳出歳入

評価項目		評価	コメント
1 管理経費等の縮減	◎	A	<p>日々の利用者の増加にも的確に対応していた。利用者数の減少に伴い、診療収入も昨年度より減収するなか、経費の管理が徹底され、適正に執行された。</p>
2 利用者増等	◎		

5. 総合評価

<p>平成28年度の患者数は61,915人（平成27年度64,166人）となった。医師や看護師が不足の中、スタッフの確保や人員配置が適正に行われた。また、適正な経費を執行し、委託料は当初予算額より減額となった。一方で、慢性的な医師不足や適正受診など継続的な課題は残っており、医師の確保や適正受診の市民啓発を今後も継続実施していく。</p> <p>新潟市医師会は、会員や病院、新潟大学などと連携及び協力により、当センターで診療、施設運営を包括的にを行い、市の初期救急医療の拠点としての役割を十分に果たしていることから、指定管理者として優良と評価できる。</p> <p>また、自主事業においても、市内の医療機関と連携を行う新潟市医師会しかできない事業として評価できる。</p>			
--	--	--	--